

## 議 事 録

タイトル	学校法人清永学園 金沢福祉専門学校 R7年度学校関係者評価委員会
日 時	2026年3月18日(水) 13:00~14:30
場 所	金沢福祉専門学校 教材研究室
出席者	<b>【外部委員】</b> 学校法人第一平田学園 理事長・岡山県専修学校各種学校振興会 会長 平田委員 社会福祉法人等愛会 業務執行理事 村田委員 久安3丁目第1町会 老壮会 会長 吉川委員 <b>【内部委員】</b> 学校法人清永学園 理事長 青木 陽一良 金沢福祉専門学校 校長 堀 真人 <b>【オブザーバー】</b> 金沢福祉専門学校 顧問 酢谷 温子 <b>【事務局】</b> 女鹿・三谷・鶴飼

### 概要

学校関係者評価委員会が開催され、令和7年度の自己点検・評価集計（基準1~13）と改善方針が共有された。委員・内部委員・事務局が出席し、認可継続に向けた目的と進行を確認。

各基準で強みと課題を整理し、教育活動の質保証、学生支援の明確化、情報共有と運営の透明性、施設更新計画、募集戦略、財務の中長期計画、法令遵守・情報保護、地域・国際連携の強化などを議論。日本語学科の学習レベル差対応、留学生の在留・進学方針、地域復興連携、海外研修の再構築等の具体策が提示された。

### 会議の目的と進行

#### 開催趣旨と体制

- 学校関係者評価委員会は職業実践専門課程の認可継続要件として年1回以上の開催が求められ、自己点検結果の客観性・透明性向上と運営改善を目的に実施された。
- 理事長より前年度の開催遅延理由（介護枠対応）と今回の進行方針が説明され、外部委員・内部委員・事務局・オブザーバーが紹介された。

#### 自己点検の範囲と方法

- 評価対象は令和7年度、実施期間は12月15日~26日で、13項目（教育理念から国際交流まで）

の基準に基づき職員の自己点検・評価を集計した。

- 各基準の現状、課題、改善方向性を事務局が説明し、基準ごとに質疑・意見交換を行った。

## 自己点検・評価（基準 1～13）

### 基準 1 教育理念・目標・育成人材像

- 教育理念・目標・育成人材像は制度上は整備されている一方、教職員・学生（特に留学生）への浸透と実践への落とし込みに改善の余地があるとされた。
- 理念共有の定期機会や新任・非常勤への体系的周知、表現・説明の工夫、業界ニーズの継続的反映が求められた。

### 基準 2 学校運営・組織体制

- 学校運営は法令遵守と意思決定体制が概ね確立されているが、運営方針・事業計画の全職員への周知や意思決定過程の可視化が不十分と指摘された。
- 学科横断の情報共有、採用後オリエンテーション、事前の意見交換機会の拡充が改善方向性として示された。

### 基準 3 教育活動

- 各学科の体系的実施と試験対策は評価されつつ、日本語学科での入学時期・日本語レベル差への授業設計、教科書選定意図や評価手法の共有不足、実習内容のばらつきが課題と整理された。
- カリキュラム意図と評価基準の共有、レベル差に応じた授業設計、実習と教育目標の接続強化が求められた。

### 基準 4 学生指導

- 担任制とサポートセンター連携で生活・学習・進路支援は一定整備されているが、相談窓口の分かりやすさ、役割分担、進路指導の負荷分散が課題とされた。
- 相談ルートの特明確化と情報共有の強化、支援制度の手続き整理により安心して学べる環境整備を図るとされた。

### 基準 5 特別活動

- 地域行事・ボランティア参加等の実績はあるが、活動の目的・意義の共有不足により参加消極や欠席が生じる点、クラブ活動の制度整備の不備が指摘された。
- 目的の特明確化と事前共有、主体的参加を促す仕組み、多様な機会の探索と支援が改善方向性とされた。

## 基準 6 学修成果

- 資格試験対策・模試等の取組は一定成果があるが、成果の把握・分析の体系化、他校比較、数値以外の達成度記録と教育改善への接続が不十分とされた。
- 継続的な実績把握と外部情報活用、成果の改善サイクル化を進めるとされた。

## 基準 7 学生支援

- 健康診断・安全面を含む支援体制は一定整備される一方、相談窓口の整理・周知、奨学金等の手続きフローの見える化、留学生支援の対応時間と自己責任原則のバランスが課題とされた。
- 学科・部門間情報共有の強化と役割分担の明確化が打ち出された。

## 基準 8 教育環境

- 設備は概ね確保されるが、机・椅子の修繕、教室無線 LAN・空調の改善、老朽化対策が課題で、防災訓練・保険加入等は継続実施されている。
- 学習環境と労働環境の計画的更新、防災体制の維持・意識向上が方向性とされた。

## 基準 9 学生募集活動・受入

- 高校訪問や学校説明会等で一定成果があるが、学科ごとの募集方針・特色や選抜基準の周知不足、日本語学科で進路成果の明確化不足、教育成果の発信不足が課題と整理された。
- 方針の明確化、具体実績の情報発信、選抜基準と結果共有の徹底が求められた。

## 基準 10 財務

- 学生増により改善傾向だが、中長期財務計画の開示不足、学科別収支の共有不足、財務情報の掲載場所・内容の分かりにくさが指摘された。
- 計画の整理・開示、定期共有、公開方法の明確化により透明性と安定基盤の強化を図るとされた。

## 基準 11 法令等の遵守

- 法令遵守は概ね適切だが、個人情報保護の具体対策の徹底、無意識の漏えい・ハラスメント防止、情報通信技術リテラシー研修、自己点検結果の分かりやすい公表が課題とされた。
- 継続的意識づけと研修実施、適切な情報公表で信頼性向上を目指すとされた。

## 基準 12 社会貢献・地域貢献

- 公開講座・施設提供・地域イベント参加等は実施されるが、意義付けの共有、留学生多数校としての地域感謝の可視化、情報発信の工夫が課題とされた。

- 活動目的の明確化、主体参加を促す基盤整備、連携事業の継続発信と充実が方向性とされた。

## 基準 13 国際交流

- 受入中心で基盤はあるが、戦略的な位置づけや海外派遣・研修の双方向交流、海外からの評価把握と教育改善への反映が不足している。
- 内部進学重視か進学・就職併用かの方針明確化、海外評価・ニーズの把握と指導への反映により質的向上を図るとされた。

## 質疑・意見と具体的対応

### 日本語学科のレベル差対応と進級運用

- 入学時期・日本語力のばらつきに対し、3カ月ごとの振り分けで適合度を高める運用を説明。クラス規模拡大に伴う精緻化を見込む。
- 進路では「進学コース」原則の下、在留変更の拡大傾向に対応し、入国時に在留資格変更を行わず進学する誓約を導入し、出入国在留管理庁とも連携して適正化を図る。

### 学生支援と相談ルート of 明確化

- 担任を一次窓口とし、留学生サポートセンターが処理・相談を担うルートへ是正中。話しかけやすさの偏在を是正し、担任へ情報集約する方針が示された。

### 教育環境・設備投資計画

- 電子黒板系システム（マックスハブ）導入・活用を進展。建物老朽化対策として屋上防水・外壁・トイレ改修・空調・無線 LAN 整備等を優先し、10年以内に7～8億円の積立目標を示した。
- 学内に多目的トイレ未設置の課題に言及し、早期の改善候補とした。

### 募集戦略と情報発信

- 国内は前倒し募集（夏前確保）を志向、体験談動画や交流サイト活用で「入学後の成長・出口」を示す広報を強化する提案が共有された。
- 海外は関東・大阪からの溢れ出しへの対応や日本語学校とのパイプを活用し、レベルの高い留学生の受入を継続する。

### 学修成果と国家試験対策

- 介護福祉士合格率の改善に向け、次年度に向けた考え方・やり方の見直しと遂行を表明。成果の記

録・分析の仕組み化で教育改善へ結びつける。

## 財務運営と処遇

- 中長期計画と学科別収支の定期共有を来期以降に強化し、月次レベルの可視化を目指す方針を説明。地域相場等を踏まえた処遇水準の合理化と交通費等コスト増への機動的対応にも言及。

## 法令遵守・情報セキュリティ

- 個人情報保護（端末管理・書類保管・写真取扱い等）とハラスメント防止の定期研修を実施予定。サイバー攻撃被害の高額化リスクを踏まえた安全対策点検の強化を最重要課題として共有。

## 地域連携・復興支援の展開

- 百万石まつり・キリコ祭りの担ぎ体験、能登てまり（しいたけ原木栽培）による復興支援を計画し、補助金・観光地域づくり法人・自治体・企業と連携して継続性を確保。
- 活動の目的共有と可視化（記録・動画化）を進め、教育的価値の評価（単位・表彰等）も検討する提案がなされた。

## 国際交流の再構築

- 短期派遣や欧州介護先進国視察等のピンポイント型研修の有効性を議論。費用上昇（約 50 万円）を踏まえ、地域の学校動向の比較調査と成果設計を提案。
- 訪日客需要に対応した通訳・随行支援人材育成を観光地域づくり法人等と連携して進め、留学生の地域就業につなげる計画が共有された。